



記念碑台周辺尾散策路で野外観察

第65回テーマ： キノコに学ぶ自然の不思議

講演内容

- 自然界にはキノコを入り口として我々の知らない多様な生き物が存在すること
- キノコを食べたり、中毒することを客観的に見てみる
- キノコの生き方から気づかされる「共生」ということ

実施日：平成20年8月16日（土）

午後1時～3時45分

場 所：六甲山自然保護センター



講師：中嶋 知之さん
プロフィール

1959年生まれ、49歳、神戸市出身。神戸大学工学部卒業、神戸市役所。1級建築士。1987年よりキノコを学習。日本菌学会会員。2001年1月兵庫きのこ研究会設立。2007年12月「兵庫のキノコ」出版。

お盆休みにも大勢の参加者

お盆の時期の実施で、参加者の集まり具合を心配しましたが、「キノコ」のテーマに興味を抱かれた方が予想以上に多く30名が集まりました。晴れたり曇ったりの天候で、気温は31℃。風が吹くと涼しく感じる散策路の野外観察では、時間を忘れるほどキノコの観察に熱中して、約20種類のキノコを採取しました。

趣味が高じて、キノコの研究者をサポート

兵庫きのこ研究会・代表の中嶋さんに講演していただきました。神戸市役所にお勤めですが、1987年より始められたキノコの研究が高じて、2001年には研究会を設立されました。独学でキノコ研究をされている方々をサポートしたいと考え、キノコの研究者や愛好家に学習や研究の場を提供するとともに、公的な調査にも関わっておられます。

2007年には『兵庫のキノコ』（兵庫きのこ研究会編著、のじぎく文庫）を出版され、兵庫県下で出会えるキノコ245種類を紹介されています。

キノコの楽しみは「探求」だと語る中嶋さん

一般に野生のキノコを目にする時、「食べられるかどうか」が気になることが多いものです。

中嶋さんは、キノコの楽しみは「見つけること」「鑑賞すること」「同定すること」の3つ、つまり「探求」にあると強調されました。

まず野外観察の進め方を説明され、記念碑台周辺の散策路でキノコを観察しました。キノコを見つけた都度、中嶋さんに解説してもらいま



キノコの採取

した。「見つけること」と「鑑賞すること」を体験し、センターに戻って採取したキノコを図鑑で確認するなど「同定すること」もしました。

続いての講演で、多種多様なキノコの種類を色鮮やかなスライドを使って様々な生態を分かりやすく説明されました。また中毒の話にも触れられて、「毒キノコの見分け方の決定版はない」と結論づけられました。

キノコは樹木とお互いに自分では摂取できない栄養分を交換し合う、「共生」の関係で生きているお話しから、いっそうキノコへの関心を深めました。

自然に触れる楽しみが広がった

キノコという身近でもよくわからなかった生物の不思議さ、多様さ、そして、「探求」の楽しさも味わいました。野山を散策し、足下に目を凝らしてみるとたくさんのキノコに出会えます。きっと、楽しみの世界を広げるきっかけができたことでしょう。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

参加の感想 細川ひまわりちゃん

私は、六甲山魅力再発見セミナーに参加して、とってもよかったと思います。実際外へ行ってキノコをさがして観察したり、キノコについてくわしく教えてもらって「キノコって不思議だなあ」と思いました。

セミナーに参加して、前より六甲山が好きになったし、もっと六甲山のことが知りたくなりました。

なので、これから色々教えてください！楽しみにしています！キノコの先生ありがとうございました。



ひまわりちゃんとお母さん

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

コベルコ環境保全基金、セブン-イレブンみどりの基金
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金
しみん基金・こうべ



第65回テーマ：キノコに学ぶ自然の不思議



第65回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:30
2. 講演 1：13:30～14:15
3. 休憩：14:15～14:35
4. 講演 2：14:35～15:30
5. 質疑応答：15:30～15:45

講演

- 自然界にはキノコを入り口として我々の知らない多様な生き物が存在すること
- キノコを食べたり、中毒することを客観的に見てみる
- キノコの生き方から気づかされる共生ということ



採取したキノコの同定

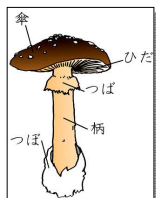
講演の挨拶（中嶋知之さん）

講師紹介のあと、早々に中嶋さんから野外観察をしましょうと提案があり、次のように観察の注意点の説明をされました。

- ・キノコを発見してもすぐに採らずに周囲の状況をよく観察する。
- ・同定するには、傘、つば、柄、つぼが全て揃っていることが必要。注意して掘り出すこと。



中嶋さん



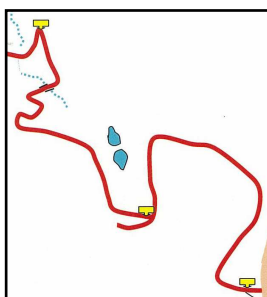
キノコの全体図

野外観察

■観察しながら採取した

13時30分から約45分間、六甲山自然保護センター周辺の近畿自然歩道を約400メートルにわたって観察を実施しました。

観察の手順は、キノコを発見したら、中嶋さんがその場で解説し、それを順に後の人に伝えていく。最後列では、採取道具を持った人が慎重にキノコを採取することに決めました。



観察した近畿自然歩道

■中嶋さんは汗まみれ

参加者によって、新たに次々にたくさんのキノコが発見された。そのたびに歓声があがり、解説に呼ばれる中嶋さんは列を行ったり来たりして奮闘されていた。参加者は、キノコを発見する楽しさにすっかり夢中になってしまった様子だった。

■みんなで20種類以上も採取

採取されたキノコは約20種類。その場ですぐに同定されないものも多く、センターへ持ち帰って中嶋さんが確認された。参加者は並べられたキノコを改めて鑑賞した。



採取したキノコ

講演内容

休憩時間は、採取したキノコの話や、それぞれのキノコ談義で盛り上がりました。リラックスした雰囲気の中でキノコについて解説が始まりました。

1. キノコのいろいろ

■傘と柄のあるキノコ

・**イグチの仲間**：傘の裏に細かい穴がたくさん開いていたり、網目状になっているりするものを総称している。網をはずして食べるのが好き嫌いはある。



イグチの仲間（採取）

・**テングタケの仲間**：毒キノコが多い。味が良いので中毒する人が多く、ドクツルダケ1本で3人が死ぬ。六甲山のいたるところで見ることができる。



テングタケの仲間

・**ベニタケの仲間**：乳の出るものはチチダケ属といい、食用する地域がある。神戸でも見ることができる。

・**ヒトヨタケの仲間**：お酒と一緒に食べるだけではなく、飲酒の前後3日間に食べても中毒する。

・**その他**：マッシュルームに代表されるハラタケの仲間、中毒すると汗が出るアセタケの仲間、きれいなので、よく絵になるアカヤマタケの仲間、木を枯らしてしまうナラタケの仲間など。



アカヤマタケの仲間

■変わった形のキノコ

・**ヒダナシタケ類**：枯れ木を分解して腐らす、森のお掃除屋。イボタケの仲間など。

・**腹菌類**：胞子を噴き出すホコリタケの仲間や、虫を呼ぶ臭い匂いを出すスッポンタケの仲間など。



イボタケの仲間（採取）

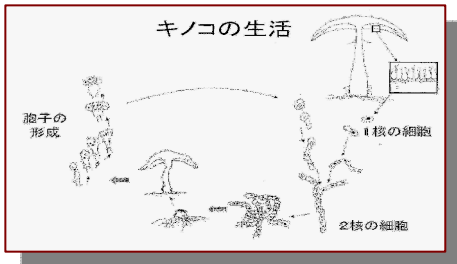
・**子囊菌類**：**アミガサタケの仲間**はフランス料理の高級食材。食べるには毒抜きが必要。

・**キクラゲ類**：木を腐らせているキノコ。

2. キノコの生態

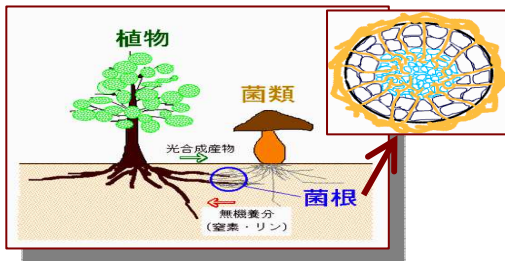
■キノコの増え方

傘にある異性の胞子が菌糸を伸ばしくっついて増えるが、オスとメスの区別がつきにくく、むしろプラスとマイナスと考えたほうがよい。くっついて増えるものの他に、自分の体をちぎっては投げ、ひとり増えていく場合もある。



■「共生」を考える

イグチ、ベニタケ、テングタケ等の菌根類は、植物の根っこに地中で絡み合い、相互に栄養の送り合いをしている。



2. キノコとの関わり

■難しい毒キノコの見分け方

「縦に裂けるキノコは食べられる」「ナスと一緒に煮ると毒が消える」「熱すると毒が消える」「虫が食べているキノコは安全」「鮮やかな色のキノコは毒」「少しだけなら中毒しない」など。

これらはすべて嘘で見分け方の決定版はなく、中毒する人は後を絶たない。対処法は、毒キノコの種類を覚えるより、確実に食用と分かっているキノコしか食べないこと。

■探究のすすめ

食用かどうかにかかわらず人が多いが、おいしいキノコというのは数が限られているし、無理して中毒の危険を冒してまで食べる必要はない。それよりも、多様な生き方をするたくさんのキノコと出会い、鑑賞し、調べる楽しさを知ってほしい。

質疑応答

毒性の研究は進んでいるか？：成分のわからない毒キノコは多い。同じキノコで中毒を繰り返した症例を積み重ねないと毒を特定して治療をすることができないことが原因となっている。

「兵庫きのこ研究会」の活動は？：定期的な活動としては、再度公園で毎月観察会を実施している。朝10時に集合し、観察してお昼には採取したキノコを並べて勉強会をしている。年に一度キノコ鍋の会があり、会員がそれぞれ美味しいキノコを持ち寄って食べている。

まとめ(中嶋さん)

六甲山をはじめ、兵庫県ではたくさんのキノコと出会えます。鑑賞の手助けとしては『山溪カラー名鑑・日本のキノコ』『ヤマケイフィールドブックス7・きのこ』の2冊で1300種類位がカバーできます。同じキノコでも成長過程での個体差が大きいので、複数の図鑑での確認が必要です。

事務局より

今回のセミナーには、8月3日(日)に開催された「六甲山子どもパークレンジャー」の参加者とサポーター会員の参加がありました。

大石昂くんのお母さんは、自作のネズミの剥製を披露しました。細川ひまわりちゃんは、採取したキノコを観察するために持ち帰りました。新しい参加者も増えて、このセミナーが様々な形で根づいており、発展していることを実感しました。



ネズミの剥製(大石さん作)

◆参考・配布資料など

- ・スライド「キノコのいろいろ」
- ・パンフレット「キノコのいろいろ」
- ・「キノコの観察と採取」(兵庫きのこ研究会、六甲山自然案内人の会)
- ・『兵庫のキノコ』(兵庫きのこ研究会編著、のじぎく文庫)



兵庫きのこ研究会

中嶋 知之 なかしま ともゆき

「兵庫きのこ研究会」<http://www.hyogo-kinoko.jp/>

◆参加者の声～アンケートより～

- ・毒キノコの見分け方がなかった。
- ・キノコは身近に多様性のある生物として存在しており、鑑賞用としての楽しみ方を教わり、見方が変わった。
- ・これを機会にキノコをさらに学び、かつ親しみたいと思う。

◆参加者：30名(50音順・敬称略)

浅井 審一	岩木美寿雄	大石 昂生	大石 玲子
大垣 廣司	岡 敏明	國里 吉秀	久保 紘一
小林 信治	島村美津子	関根 千鶴	関根 幸夫
竹尾 重人	竹ヶ原泰三	伊達奈保子	築山 毅
築山 英子	堂馬 英二	西井 豊	長谷川友彦
平井 庄一	細川向日葵	細川 優子	松岡 勇樹
村上 定広	森 康博	八木 浄	安岡 愛子
山本 康典	米村 邦稔		